



3月8日「国際女性デー」は女性の生き方を考える日



「国際女性デー」とは、1908（1904年とも？）年ニューヨークで女性が労働条件改善や参政権獲得を訴えてデモを起こしたことなど、現状に声を上げる女性たちの勇気ある行動を称え、世界婦人年にあたる1975年より、女性運動の記念日である3月8日をInternational Women's Day（国際女性デー）として、国連がお祝いを始めました。この日にちなんで、女性の生き方を考える上で、日本に住む私たちの身近な問題は男女格差（ジェンダーギャップ）ではないでしょうか。

世界経済フォーラムによる各国の男女格差を測るジェンダーギャップ指数レポートによると、2022年度の日本の順位は156か国中**116位**でした。昨年の120位より順位はあげたものの、先進国では最下位で、ギャップ（格差）は解消されないままとなっています（右図参照）

ジェンダーギャップ指数は、「政治」「経済」「教育」「健康」の4分野の指数に分かれており、日本では、特に「政治（閣僚や国会議員の割合等）」が139位、「経済（管理職や労働者に占める割合等）」が121位と低く、順位に大きく影響しています。

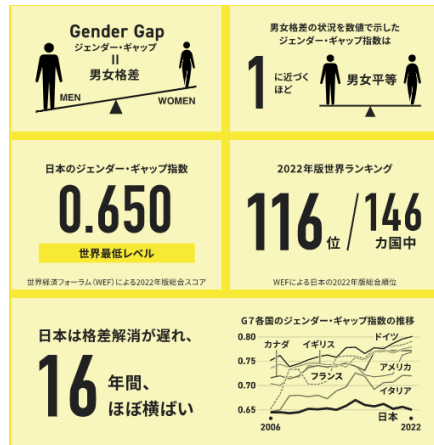
ちなみに、現内閣では閣僚19人中女性は2人しかいません。日本の女性管理職の割合は13%であり、フィリピン50%超え、スウェーデン40%に比べるとかなり少ないことがわかります。

このようなジェンダーギャップの問題は、少子化にも影響しています。子育てにおいて、女性と男性の家事・育児時間の差が大きいことにより、第2子以降がうまれにくいことが、分かっています。（右下図参照）

女性は、育児・家事の負担が重く継続就労が難しくなり、また男性も収入をメインで得るために長時間労働になりやすく、その結果、性別役割分業がますます進みます。この構造は、介護においても、同じだと言えます。

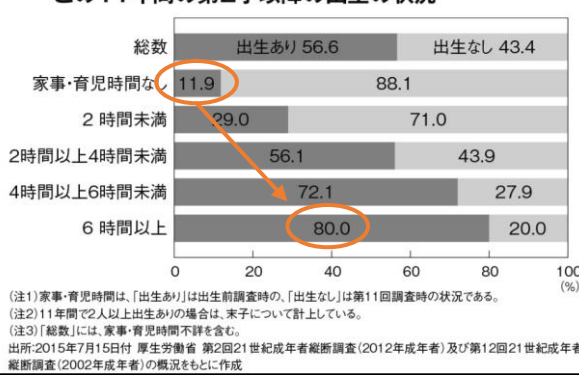
昨今の「選択的夫婦別姓制度」に対する議論もそうですが、日本が目指している「多様な人材が活躍できる社会」のためにも、国にはジェンダーギャップが解消される本質的な対策をお願いしたいところです。

そして、私たち一人ひとりも「自分の生き方」や「家族のあり方」について、お互いに話したり、行動をしていく必要があります。国際女性デーは、女性のためだけでなく、全ての人々がよりよく生きることを考える日なのかもしれません。



あなたの地域のジェンダー平等は？都道府県版ジェンダー・ギャップ指数 (kyodonews.jp)

図2 夫の休日の家事・育児時間別に見たこの11年間の第2子以降の出生の状況



2月の「ダブルケア月間」を終えて

ご報告

今年も2月1日～28日の「ダブルケア月間」が、28日に閉幕いたしました。

全国のダブルケア支援団体で、ダブルケア月間に賛同する団体が、全国それぞれの場所で「老後の資金」「パートナーシップ」「ヤングケア」のなど、昨年以上に多様なイベントがリアルおよびオンラインで行われていました！

われらがスマイル☆ケアケアチームは、これまでのケアケア通信35号の中から、ダイジェスト版を、定期的に配信し、お届けしました。

ダブルケア月間のHPにはまだ情報もありますので、ご興味のある方は覗いてみてください。

全国の活動団体と取組が分かります。

HP：[ダブルケア月間-子育て・介護](http://jimdofree.com) [ダブルケア月間\(jimdofree.com\)](http://jimdofree.com)



【編集後記】

今年は桜の開花🌸が早くなりそうですね。ジェンダーギャップをテーマにしましたが、ケアをする人にとっては、大事な問題であると改めて感じました。息子もこの春中学生。「自分のことは自分でしてね」とこれまで以上に言い続けます！

(持ち回り編集長 R)